



# 開発基盤部会 2023

---

リーダー 西野大介

基本は2022を踏襲  
以下差分のみ。

# 実績と計画 (1)

14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	
V 1		V 2					V 3				
<p>オープンソース化に伴い、 .NET開発基盤部会を設立</p> <p>各種 機能の強化 ≡ 停滞期 (SIサポートの限界) .</p>		<p>サービス開発の スタートアップを試行</p>		<p>サービス開発基盤として、 汎用認証サイトをリリース</p>		<p>部会名称変更 → 開発基盤部会 (.NET Standard, Core, JS, Linux 対応)</p>		<p>.NET Core 3.0 対応 汎用モバイルバックエンド開発</p>		<p>.NET 5 対応、コンテナ技術応用 データパイプライン周辺技術リサーチ</p>	
		<p>データパイプライン各層のテンプレート化 既存プロダクトの継続エンハンス</p>					<p>データサイエンス分野への進出 既存プロダクトの継続エンハンス</p>				

## ① v 1.0系 (2007-2016)

高い品質・信頼性、生産性、柔軟性 (QCDF) を実現する、  
エンタープライズ・システム向けの開発基盤を提供。

## ② v 2.0系 (2017-2019)

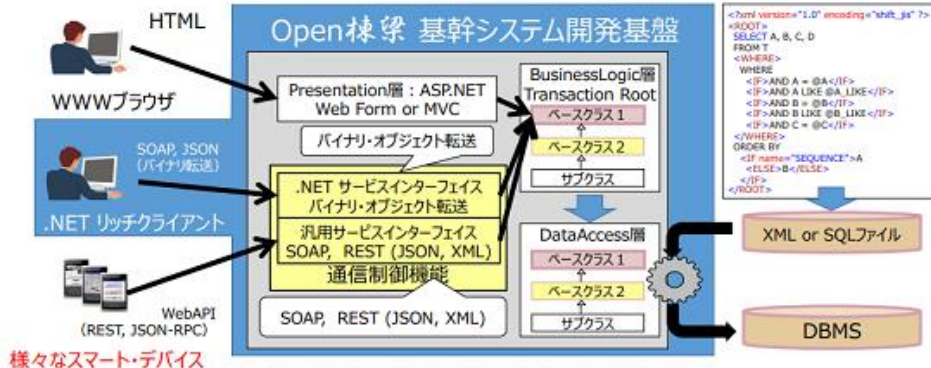
サービス開発 : OpenID系認証, JavaScriptフロントエンド、  
ASP.NET Coreバックエンド技術で、Cloud & Mobileアプリ開発  
などのサービス開発のニーズを満たす。

## ③ v 3.0系 (2020-202x) <- こちらにシフト済

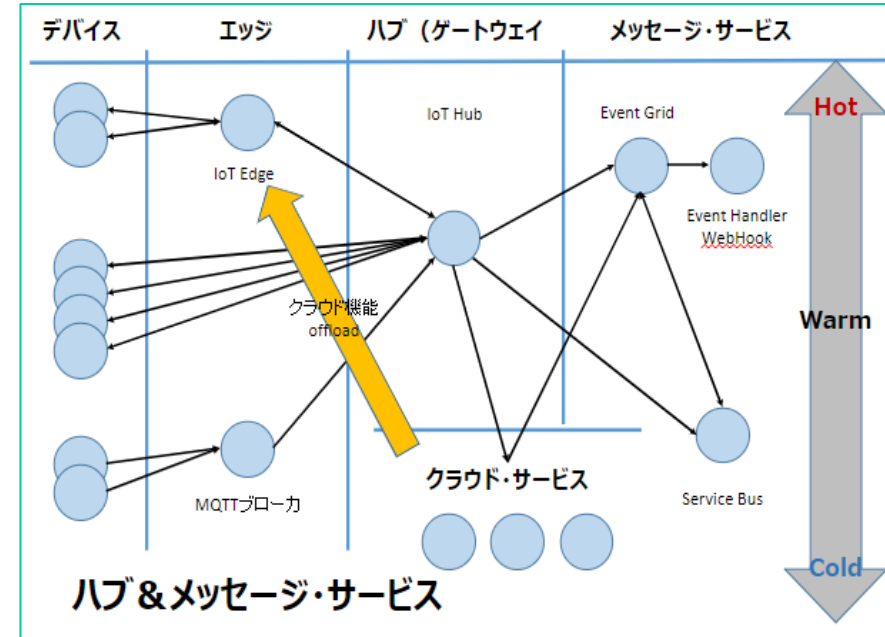
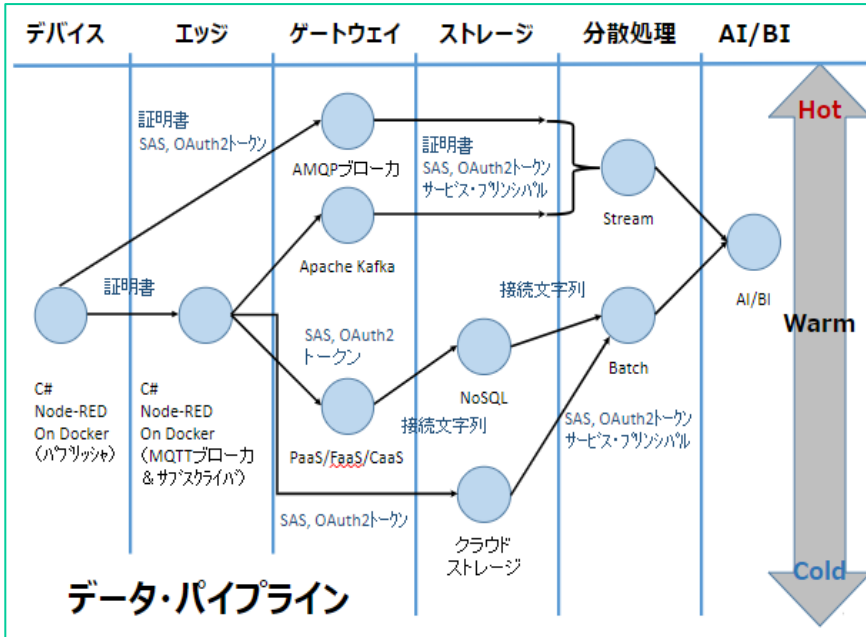
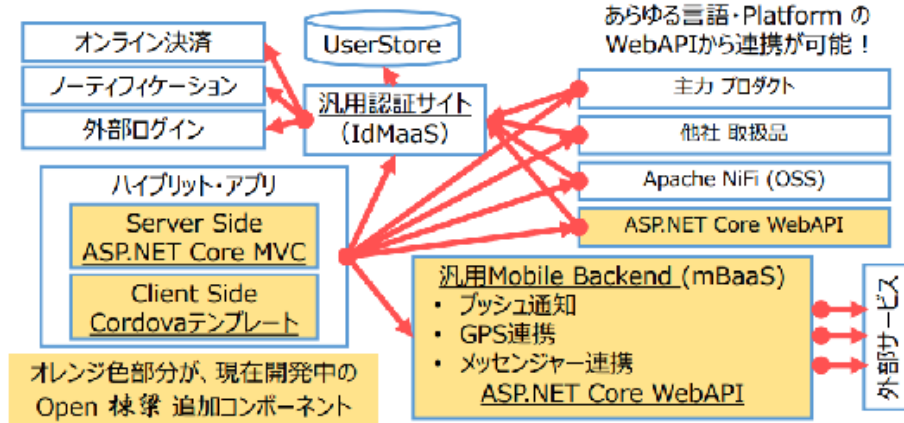
Linux、DevOps、データサイエンス等々

- 「何故か」良い業績。この違和感は転換期である証拠。
- 企画と指標の再検討が必要か？

# 実績と計画 (3)



保守性 向上、生産性 向上、品質 向上、  
信頼性 向上、セキュリティ・脆弱性の排除



- ① DX系プロジェクトについてのレポート  
[https://1drv.ms/p/s!Amfs5caPP9r5jgb4poXUCpIy\\_33p](https://1drv.ms/p/s!Amfs5caPP9r5jgb4poXUCpIy_33p)
- ② 機械学習・深層学習についてのレポート  
<https://1drv.ms/p/s!Amfs5caPP9r5jh-m6pIMwKgDln1N>
- ③ 機械学習・深層学習についてのNotebook  
<https://github.com/OpenTouryoProject/DxCommon/tree/master/Notebook/Jupyter>
- ④ IoTソリューションについてのレポート  
<https://1drv.ms/p/s!Amfs5caPP9r5jigcq1ECbtb0nqE5>
- ⑤ 深層学習についてのレポート（CNN編）  
[https://1drv.ms/p/s!Amfs5caPP9r5jlAZEt6cg2zg\\_2cU](https://1drv.ms/p/s!Amfs5caPP9r5jlAZEt6cg2zg_2cU)
- ⑥ 深層学習についてのレポート（RNN編）

...

- 能率、効率の終焉
  - 押売りの弱体化
  - タイムマシン経営の終了
  - ソリューション営業の終了
- ニーズ多様化
- アサイン困難



- プログラム・マネジメント
  - クロスセル戦略
- データサイエンス
  - インサイト営業
- 老舗の新品
  - プロダクト&サービス
  - 大規模スクラッチ復権
  - KGI、KPIの見直し

最近流行ってる技術  
とかって何かあるの？

残念だけど、もう、  
そんなモノはないのよ。



枠を広げる必要性がある。

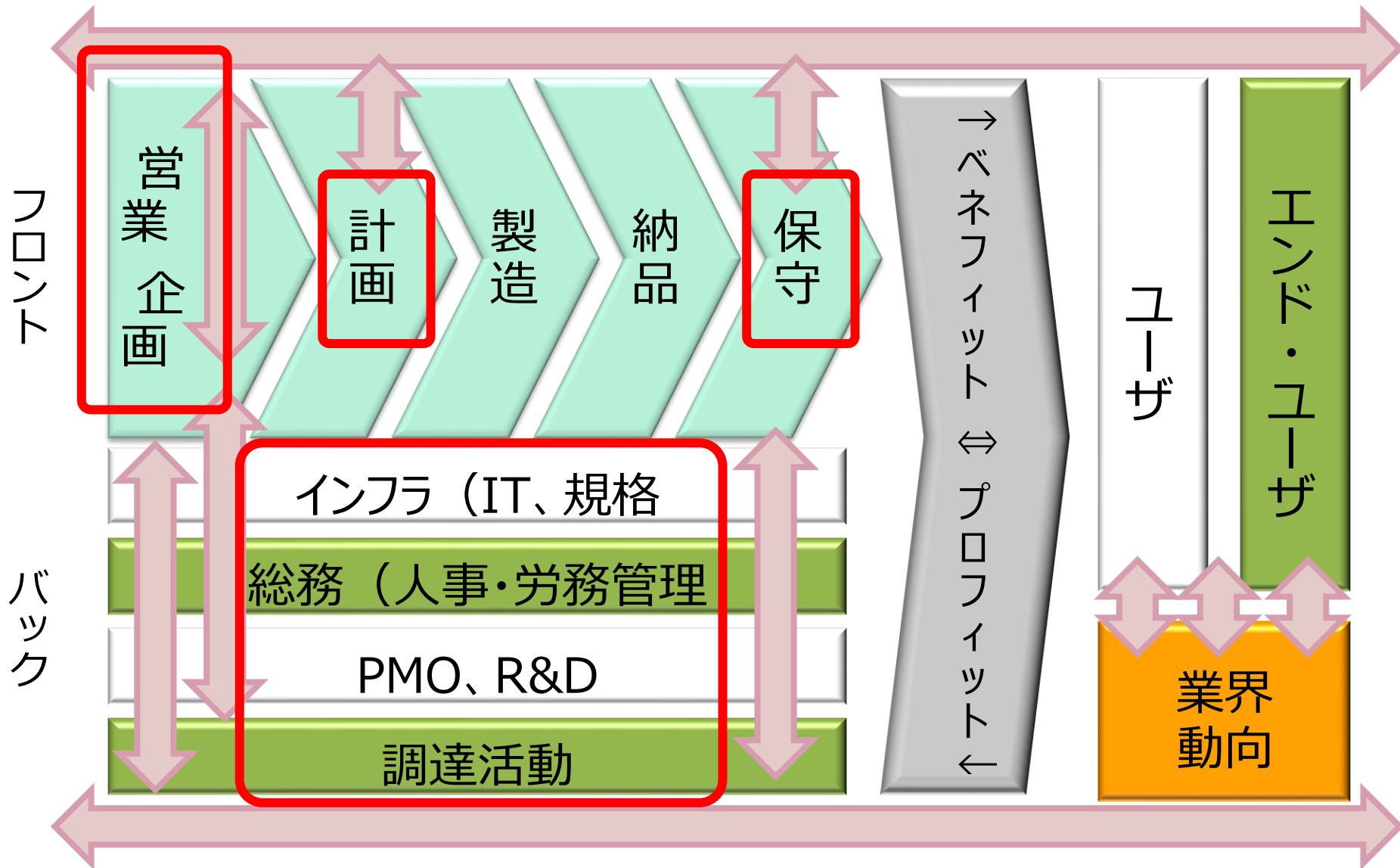
## 水面下で起きている100年に一度の大きな変化

- 善い者が始めて、悪い者が終わらせる。  
終わり → 始まりの時期に大きな変化がある。
- 始めがあれば終わりもあり、常識も非常識に変わる。
- 特定の文脈上での真・偽が変わるが、善・悪は普遍。
- **例：量的なデフレから質的なインフレへ。**
  - **[能率から効率]の時代が終わって[老舗の新商品]へ。**
  - **歴史的に見て、非常識が30年続く事も珍しくない。**
- OSSも関係あるっちゃある。
  - OSSが、まだ珍しかった時代
  - OSSが、すっかり普及した時代
- 当然、事業にも関係ある。
  - OSSの取得チェックでBlack Duckが盛り上がっている。
  - OSS提供側より利用側で新規に考える事が増えている。

世界の正常化で  
QTからQEへ。



## 高度化する バリューチェーン上の 情報サプライチェーンと 意思決定



意思決定に関して、決定的なモノは無さそう。

データサイエンス、データ分析

BI 意思決定を“支援”する技術

データディスカバリ  
(ダッシュボード、アドホック・クエリ)

データ解析 (OLAP)

統計解析 (記述統計、推測統計)

ベイズ統計 (計算機統計、社会データ分析)

様々な技法を使った、**データ・マイニング** (DM … エンリッチメントとか新たな知見を得る

, etc.

AI 知的な処理をする技術

機械学習

**推定 (分類・回帰、  
クラスタリング)**

深層学習

非構造化データの  
**分類・回帰、認識、創出**

- **作自動運転**
- **業自動化**
- **ロボティクス**

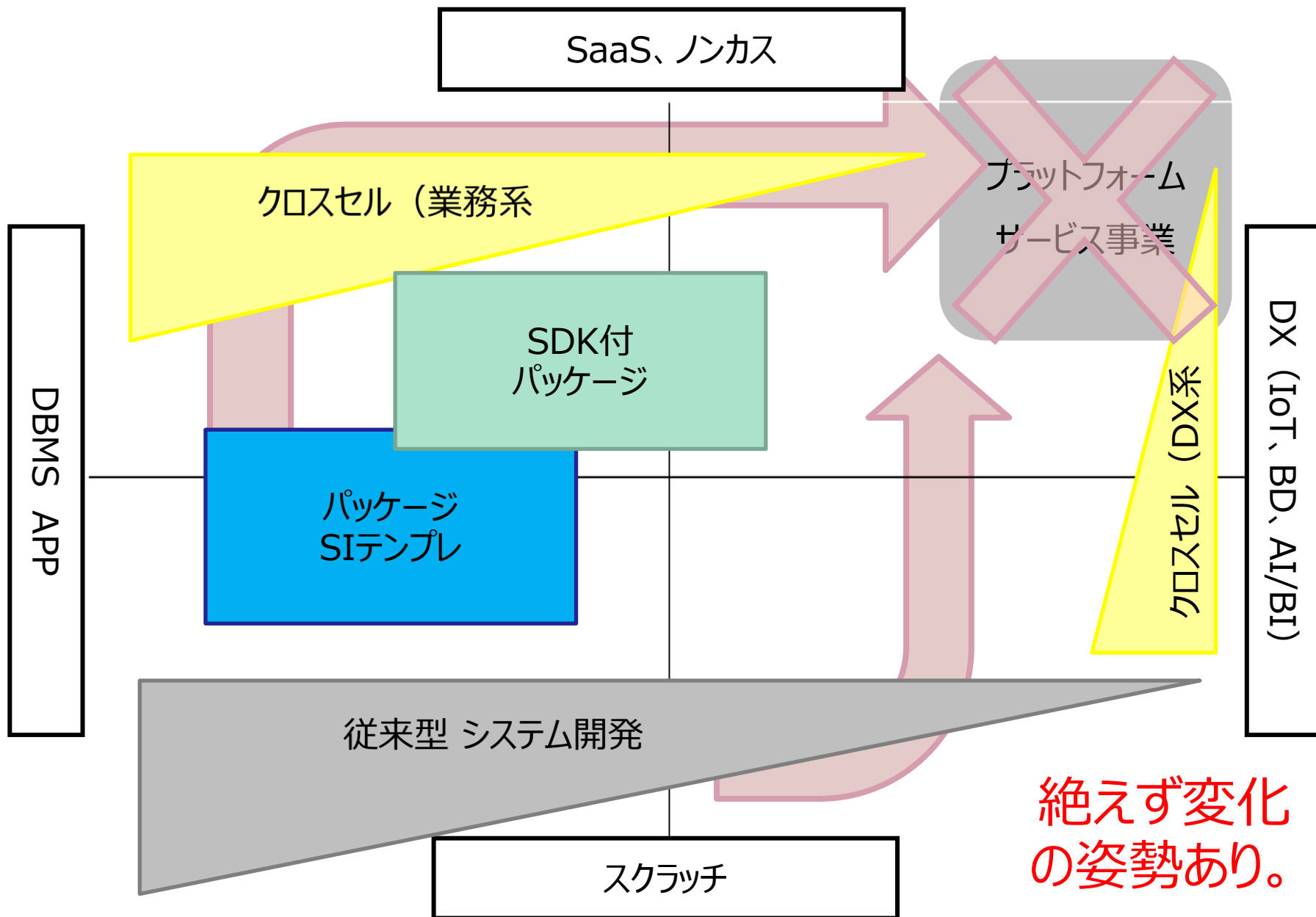
(**第三次AIブーム**)

一方で、機械翻訳、OCR、音声認識などは有り難い。

## 意思決定の前の真偽チェック（ツール、技法、情報）

- ChatGPT : 確率的オウムは使えよう。
  - 広い範囲の[正しい情報]で学習していれば有益だが…。
  - コンテンツ・モデレーションなど強化学習の弊害がある。
- クラスタリング : 信頼の高いクラスタを探す。
  - 体制派 vs 反体制派
  - G7 vs BRICs & グローバル・サウス
  - MSM vs オルタナティヴ・メディア vs SNS
  - 社員 vs ステークホルダー vs SNS (→ キーマンは焦点が合う)
- 信頼性の高い情報について解った事。
  - 自分の利益になる情報を意図的に発信。
  - 自分の利益になる（様に見える）情報を（無意識に）選好。
  - フェイク情報は前後繋がりがなく単発で終わる（例：買い、買い）
  - 真は計画的な成行、偽はリカバリの愚策（神は細部に宿る）

# 2023年度 テーマ（6）：背景 事業の変化 1



絶えず変化の姿勢あり。

- 事業の変化
  - SIerは、クロスセルやDXへのシフト
  - Webケーは、ウィナー・テイク・オールへ
- 新旧、真偽の発生例
  - 旧、偽
    - SIerは古い
    - プログラミング学習スクールからWebケーへ。
    - **KPI**
      - 外注比率と寄与率を向上させる。
      - リサーチ件数、導入件数を増やす。
  - 新、真
    - SIerは新しい技能を絶えず習得している。
    - Webケーは項オジを必要としていない。
    - **KPI**
      - 寄与率を下げコア以外の外注比率を上げる。
      - やれることを増やし、組み合わせで統合。

## ITインフラ

- プラットフォーム
- アプリケーション
- DX、インサイト

↓ IT 多様化 ↓

## サプライド

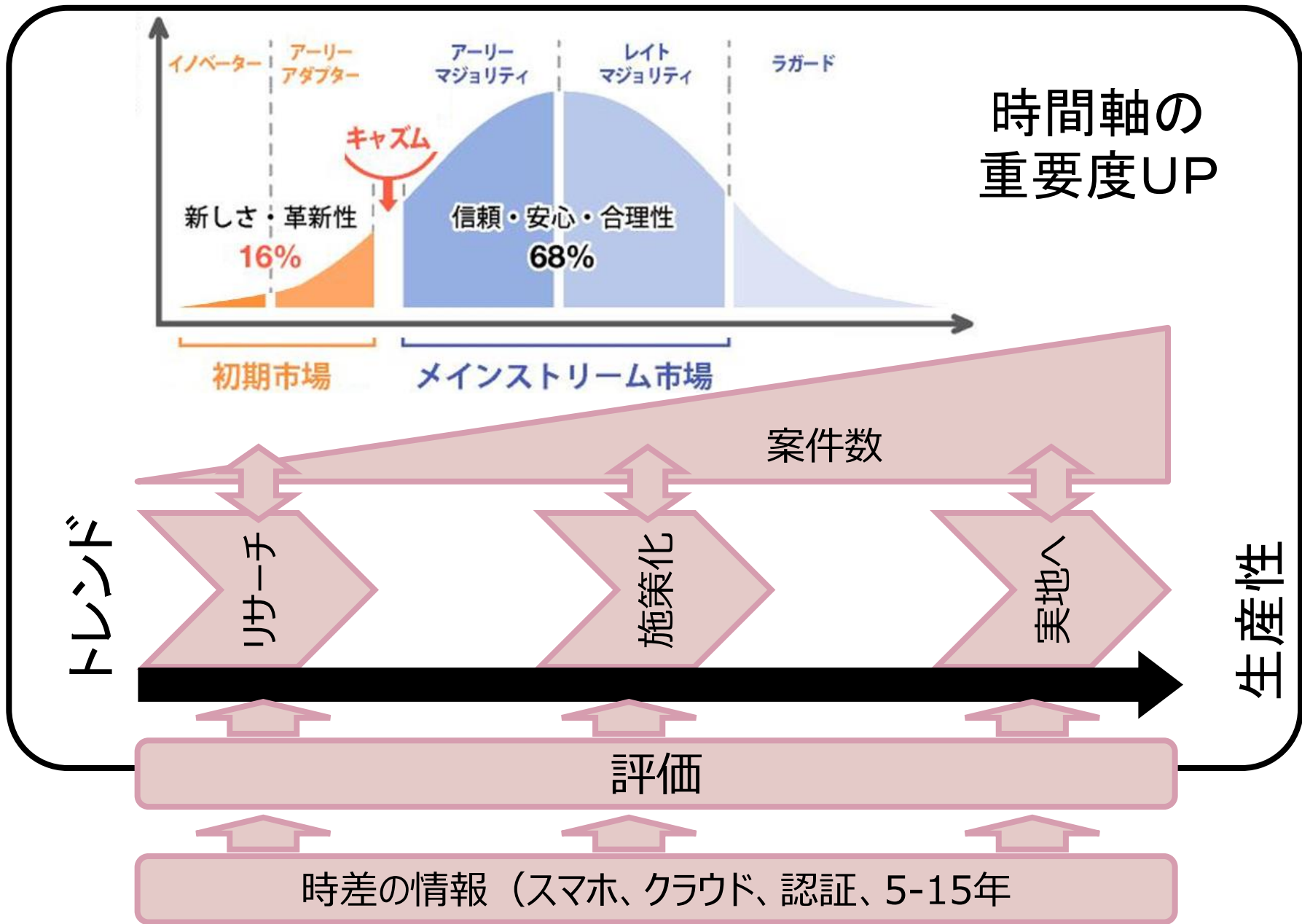
- デマンドサイド

↓ PM 高度化 ↓

## プロジェクト・プログラム

- ポートフォリオの  
統合マネジメント

# 2023年度 テーマ（8）：背景 事業の変化 3



# 開発基盤部会 - OSSコンソーシアム

<https://www.osscons.jp/dotNetDevelopmentInfrastructure/>